

事例8

< 事例概要 >

- ・ 40 歳代、バセドウ病の患者。
- ・ 甲状腺亜全摘術を施行。手術時間は約1 時間半。術中出血量は約240 mℓ、手術終了後にラリングエルマスク抜管。
- ・ 病棟帰室約1 時間半後に軽度の息苦しさがあり、体位変換すると軽減した。約4 時間後、ドレーンより血性排液が約300 mℓあり、止血剤を投与し、ガーゼで圧迫固定した。約9時間後より経皮的動脈血酸素飽和度（以下SpO₂）98%以上を保っていたが、息苦しさ、呼吸促迫、痰のからみ があり、体位変換、頭部挙上などで軽減した。約13 時間後、SpO₂ 98%、ベッド柵を 叩いて息苦しさを訴え、顔色不良となり急激にSpO₂ が低下し、心肺停止。ガーゼを除去すると創部は離開し、あふれた凝血塊を手で除去した。頸部が硬く伸展できず、気管挿管を試みたが困難、気管切開術を施行したが、約2 週間後死亡。
- ・ 死因は、気道閉塞に伴う低酸素脳症。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。